

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

|            |   |
|------------|---|
| Title      | 「夢」と「困る」：子どものイメージ運動を停滞させる意識   |
| Author(s)  | 小林, 照子  |
| Citation   | 児童の言語生態研究, 14 : 28 - 37   |
| Issue Date | 1990-11-25  |
| DOI        |   |
| Self DOI   |   |
| URL        | <a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045155">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045155</a> |
| Right      |   |
| Relation   |   |





# 「夢」と「困る」

——子どものイメージ運動を停滞させる意識——

小林照子

## 1 はじめに

我々が「個性」研究に求めるものは、天才の発見でもなければ個人差の判定でもない。そのねらいは人間の本性、生きる力としての「個性」がどのように育っていくのかを見極めるところにある。そのために「夢作文」では子どもの活発なイメージ運動に出会うことができた。そこからは、夢と現実とが未分化でイメージの誘引性の強い低学年、夢を現実的に扱う中学年、そして夢の誘引性を楽しみ、夢に自分の意識を見る高学年、といったイメージ運動の発達筋道までも浮かび上がってきた。

このイメージ運動の発達筋道をより確かなものとするための傍証として「困る作文」を採集することにした。「夢作文」が活発なイメージ運動を引き出す糸口であったのに対し、「困る

## 2 調査方法および整理の仕方

作文」はイメージ運動が停滞している状態を引き出す糸口だと言える。子どもは一体どんなときに困るのか。イメージ運動の停滞をどのように感じているのか。このような視点から子どものイメージ運動をとらえることにより、夢作文で得た結果の検証を試みたいと思う。

作文させる際の問いかけとして次のような発問を用意した。

「あなたはどんなことでこまりますか。こまったあなたの気持ちを書いてください。」

作文調査の際の発問には毎回神経を使っている。子どもは感度の優れた共鳴体なので、よほど注意しないと、本根を捨てても教師が望む音色で答えようとするからである。我々が行う調査では、文学性の高い作文や構成力の優

れた作文を書かせることは期待せず、あくまで本根の作文、感じたままに思いついたままの生の声を求めてきた。「六作文」や「夕日作文」のように「六」「夕日」といった言葉が、子どものイメージ運動を起す引き金になるような場合は、前置きや説明なしで、「このことばを聞いて、今心の中に広がった思いをそのまま書いて下さい。」と問いかけた。しかし「困る作文」の場合、「困る」だけでは「こんなことで困った」「あんなことで困った」という、経験の羅列に終わってしまうのではないかと思われたので、前述のような発問を用意することになったのである。子どもたちが困る状態に陥るきっかけと、困る状態の心の動きを書きつけてほしいという期待のもとに調査を行った。

- 調査実施期間  
平成元年三月〜十二月
  - 調査実施校
- |            |             |     |
|------------|-------------|-----|
| 3年生 (一二三名) | 横浜 名瀬小      | 三六名 |
|            | 東京 八王子第六小   | 六六名 |
|            | 広島 栗生小      | 二二名 |
| 4年生 (一〇二名) | 茨城 六郷小      | 二三名 |
|            | 東京 八王子第六小   | 三三名 |
|            | 東京 私立聖徳学園小  | 二一名 |
|            | 東京 私立相模女子大小 | 二五名 |
| 5年生 (一四〇名) | 東京 笹塚小      | 三四名 |
|            | 東京 私立聖徳学園小  | 三〇名 |
|            | 川崎 東小田小     | 四一名 |
|            | 高知 鴨田小      | 三五名 |
| 6年生 (一七〇名) | 茨城 六郷小      | 四一名 |
|            | 東京 私立玉川学園小  | 八〇名 |
|            | 東京 私立聖徳学園小  | 二一名 |
|            | 山口 三井小      | 二八名 |
- 以上のような調査方法によって採集した作文を分析するにあたって、まず五三五の作文を三回以上は通読するこ

とにした。通読している限りにおいては子どもの不平不満、怒り、悲しみといった感情に圧倒されてしまった。これは正直な感想である。夢作文から伝わってくるようなエネルギーを生み出す力はなく、大人に苦しめられている子どもの姿、対人関係に悩む子どものため息であふれていた。読めば読むほど子どもが可愛そうで気の毒に思えてきて、分析作業への気力がすっかり萎えてしまった。こんな経験ははじめてである。もう一度「夢作文」を読み直し、また「困る作文」を読み返すうちに、こういった子ども達のため息こそ、我々が求めていた資料だったのだということが見えてきた。つまり「困る作文」を書かせた目的は、子どものイメージ運動が何かによって停滞もしくは停止に追いやれた際の心の状態と、その何かを探ることであった。

子どもの生活の本流には、知識や経験以前のイメージ運動があることは「夢作文」の分析で再確認されたことだが、ここでは、もう一つの生活力として、現実との対面を見ることができると。すなわち「困る作文」に書きつけられているのは、その子どもの処理能力を超えた現実の数々だとも言えるからである。

子どものイメージ運動を停滞もしくは停止に追い込んでいっているのは、大人であると同時に子どもの意識でもある。「困る作文」の通読をくり返しているうちにそういった子どもの意識として、九つのポイントが浮かんできた。

1 対人関係 2 時間 3 空間 4 技

5 喪失・欠損・破壊 6 定義 7 情動 8 生理 9 現実処理以外のもの  
改めて五三五の作文を読み直し、九つのポイントを拾い出すことによつて、子どものイメージ運動の実態を探ってみたいと思う。

### 3 子どものイメージ運動を停滞させる意識

#### へ人と人との間で困る

##### 3年男子 八王子第六小

ぼくは、おとうさんにおこられたとき家中にげまわって、こまっただと思いました。

##### 3年男子 栗生小

べんきょうをよるにするときにお母さんがおこるからこわい。いつもこわいからちゃんとしてようと思う。

##### 3年女子 名瀬小

お父さんとお母さんが、けんかをするときがこまる。りゆうはりこんになるかもしれないから。

##### 4年男子 八王子第六小

ぼくのこまることというのは、お母さんとかにおこられて、お母さんの気げんをもとにもどさなくちゃ、とか思っている時です。

このような例の数は多く、5年生になっても6年生になっても無くならない。家の外に出されたり、夕食を取り

上げられたり、ぶたれたり。それらの行為が愛の鞭であることを信じたいが、いくら愛があっても、子どもにとってみれば困るのである。子どもを困らせる大人として、両親に次いで先生、祖父母と数多く見られたが、6年生の中には世の中の大人を指してオジタリアン、オバタリアンを批判するものもあった。

##### 3年女子 八王子第六小

わたしがとってもこまっていることは、M君やK君がすぐ人の物をとることで。M君はそれみせてといってみせてあげるとすぐぬすんでしまったりとったりするのでわたしはともこまります。K君はとることが多いですがそれだけではなく、わたしがなにかをいうとたたいりけたりうるせいなあとこのです。それにK君はM君みたいにみせてというんじやなくて、ヘーイヘーイとかかかってにぬすむのでわたしはそれがこまるのです。だからせきかえをする時、K君やM君のそばだったりおなじはんになりたくないのです。

##### 3年男子 八王子第六小

ぼくは、いつもN君になんにもしてないのにN君が、ふでばこでぶつたいたからこまっている。

##### 5年男子 笹塚小

いつも、T君とかが、ほんのちょっとのことでおこって、ぶつたりけつたりわる口をいわれたりしてとてもいやです。それにT君は、ぼくよりもすごいへましているのに、自分のことは、かんがえず人のことばかり、いつてくるからとてもいやでした。いわれた時は、こんなやつとは、しんでもあそびたくはないと思いました。

##### 5年女子 笹塚小

私のこまる所、性格の悪い所で友達に、さつきまで遊んでた人の悪口を言われると、いっしょになつて言つて、また遊んでた人と会うと、「さつき悪口言つてたよ」とつげ口したりする。

このままでは、友達がいなくなっちゃうかもしれないけれど、どつちのみかたをすればいいのかなどよく考えたり、どうすれば直るかなども考えたりする。

3年生では実名が多く、その子が「とつた」「ぬすんだ」「ぶつた」「けつた」と、被害者意識が前面に表われている。それが4年生以上になると実名は少なくなり「友達」「言った人」「むこう」といった表現が多くなる。これは主観から一歩踏み出そうとする意識の表われではないだろうか。その点からすると、ここに掲げた5年男子の例は、5年生としては少々幼稚だと考え

なければならぬ。5年女子の例のように人と人との間における自分のあり方を冷静に考え直している例は6年生に多い。友達関係で困る例は数多く、子ども達の意識広がりを見張る思っている。

#### 4年男子 八王子第六小

ぼくにとつてこまるということ  
は、しつぱいをしたときだと思  
います。たとえば、一人とやくそ  
くをしていたのにもう一人とやくそ  
くをしたときです。そうゆうとき  
は、すぐあせつてこまりました。

#### 3年女子 栗生小

友だちとけんかしたとき、自分  
からあやまればいいのだから  
いいし、どうやってあやまればい  
いのか分からない。

#### 4年女子 八王子第六小

友達関係でこまる時もありま  
す。友達だからこれぐらいいって  
もへいきだろうと思つていつたら  
けっこうきずついたりしちゃった  
こともありました。いっしょうけ  
んめいにうそつていつてもゆるし  
てもらえない時はだんだん自分で  
むかついてくると思っています。

#### 5年女子 鴨田小

仲よしの人と気まづくなつた  
時。なかなか声をかけられなくて  
ただ、むこうが言ってくるのをま  
つだけ。

#### 6年女子 玉川学園小

私が男子とおしゃべりしている  
と横から「男好きだね」といわれ  
るのも困ります。しゃべっている  
のがいけないみたいになつてしま  
うし、両方で、気まづくなつてし  
まうからです。

#### 6年女子 玉川学園小

私の困る事は、そんなことあり  
もしないのに変なうわさを流され  
ている事です。前もいろいろなこ  
とを、しゃべられて、先ばいにい  
じめられた時がありました。現に  
今も、新しいうわさが流れていま  
すし、本當にうわさというのは、  
いやな物です。

#### 6年男子 玉川学園小

ぼくが一番困ることは人助けを  
しようと思つてもできないので  
す。これは席をゆずれないという事  
はあります。バス停でおばあさ  
んが座つていました。すると変な  
おじさんが来て、たばこをすい始  
めました。するとおばあさんの方  
に風がふいて、たばこのけむりが  
おばあさんにあたつてむせました。  
それが何回もくり返されて、コン  
コン言い始めました。おばあさん  
がかわいそうだったので言おうか  
と思つたのですが、服もチンピラ  
っぽいおっさんだったのでできま  
せんでした。バスが来ておばあさ  
んは、そそくさと上がつていきま  
した。たばこをすうのは勝手だけ

ど、周りの人の事も考えてすつて  
もらいたいです。

女子の例が多くなつてしまつたが男  
子でも同様であつた。最初の例は二重  
約束を「失敗した」と言い切つてい  
るのだが、これと同様の例は3・4年  
に多く、5・6年では見られなかつた。

3・4年の子どもが約束を大切に考  
えていること、約束に責任を持つてい  
ることがよくわかる。人間関係の基本は、  
一対一の心の交流にあるということな  
のだろう。続く3・4・5年女子の例  
もそれを証明している。6年生になる  
と、意識は一対一の関係に留まらず、  
学級集団、学校集団、さらには町で出  
会つた見ず知らずの人々といつた社会  
に広がつて行く。悪口、陰口、うわさ  
といつたコミュニケーションが人間関  
係に及ぼす力を感じ、困つているので  
ある。

次に掲げる例からは、そこに集ま  
つた人間関係が生み出す雰囲気、その雰  
囲気に自分が合うかどうかということ  
までもにも気を使つていることがわかる。

#### 6年女子 玉川学園小

私はクラスの子との話につい  
ていけません。それは、みんなテ  
レビを沢山見るからか分かりませ  
んが、タレントやテレビの話ばか  
りなのです。——中略——なるべ  
く女子の話についていくようにし  
ているのですが、どうしても全然  
ついていけません。だからどうし  
てもみんなより、はずれてしま

ます。それでどうすれば良いか今  
なお考えているのですが全然分か  
りません……。

#### 4年女子 相模女子小

私はこんな時こまります。なけ  
ればならないものがない時、それ  
から道なんかわからなくなつた  
とき。それから、自分がとんでも  
ないことをやらかしたときとか、  
その場のふんいきが自分のせい  
でしられたとき。人からあずかつた  
ものをなくしちゃつたり、こわし  
たりしたときもこまる。『こんな時  
は、だれがなぐさめてくれても、  
はげましてくれても、頭の中は「困  
つた」のこぼだけ。あなたは何  
んなときこまる？

#### 6年女子 六郷小

学校でないていて、なきやんだ  
とき、たちなおつていのに、ど  
うゆうふうにして、みんなに「あ  
う」というか。

そして人間関係に敏感であるだけに、  
社会の大人たちの無神経さも気にな  
るのである。

もう一つ、集団と自分とのかわり  
から生ずる意識として見逃せない例が  
ある。

#### 5年男子 鴨田小

みんなは、できているのに、で  
きなかつたらなんか気持ちがおち  
つかなくて、おいていかれるよう

な気持ちがある。

#### 4年女子 八王子第六小

私のこまることは、自分がふと  
っていることのみです。——中略  
——なんで、このことだけがこま  
るといのは、自分でもよく分か  
らないのですが、ただ、みんなが  
ひょうじゅんどうりやせているか  
らです。自分もひょうじゅんにな  
りたいと思ってるから、やせよ  
うと思ってるのです。

標準、平均、に対する意識は、4・  
5・6年に見られた。思考力の発達に  
伴い、比較の方法が高度になるのは結  
構なことだが、それが価値観に結びつ  
くことだけは避けたいものである。こ  
んなことで困ってほしくはない。  
子どもが「困る」として対人関係を  
書いた例は、九つのポイント中一番多  
く、三二八例もあった。学年内順位で  
も、3年と6年が圧倒的一位、4年と  
5年は情動や技能に首位を譲って三位  
となっている。

人と人がぶつかり合う以上、イメ  
ージ運動が停滞もしくは停止せざるを得  
ないのだろうか。しかし、これは共  
鳴が起こる際の一瞬の摩擦者で、次に  
は必ずハーモニーとしてのイメージ運  
動が起こるはずである。個性の一人歩  
きはありえない。一人の子どものが生き  
て行く間に会おう数多くの人々の中か  
ら、その子がどんな人を選び、その人  
とどのようにかかわりあうかによって、  
一人の子どもの個性が育まれて行くの

である。共鳴し合うイメージ運動を探  
ることは今後の課題として考えておき  
たい。こんな風に考えるのも、三二八  
例の一つ一つが、真剣に相手を考え、  
自分を考えていたからである。

#### へできないと困る

「対人関係」に次いで多く見られたの  
が「技能」で、「できなくて困る」「わ  
からなくて困る」といった例の数々で  
あった。全体では二八四例。学年内順  
位では、5年で一位、6年と4年で二  
位、3年で三位となっている。「作文  
が書けない」「算数の問題が解けない」  
「知らないことを聞かれても答えられ  
ない」「宿題がむずかしい」「テストの  
点数が悪い」と、学年の別なく「でき  
なくて困る」が多かった。

「技能」には及ばないが「喪失・欠損  
・破壊」の例も多く、二二二例であっ  
た。「だいたいなものやなくしちゃった  
とき」「人からあずかったものをこわ  
してしまったとき」「わすれ物をした  
とき」「お金を落としたとき」と、ど  
の学年も同じような内容で困っている  
という点では、「技能」で拾った例と  
共通している。

#### 5年男子 聖徳学園小

ぼくが一番こまったことは、定  
期けんをなくしたことです。なく  
したのは今年の三月ごろで落とし  
たのはTAPのかえりでした。そ  
のときでんしゃにのろうとして定  
期けんをさがしたのですがなくな  
ったのです。こまったぼくはTAP

にきました。しかし定期はあり  
ませんでした。だからぼくはしか  
たなくかえることにしました。お  
金は先生からかりたのです。ぼく  
は家にかえってからお母さんにい  
うとすぐおこりました。その月  
はどうしてもごはんのどをと  
りませんでした。その日から一カ  
月ぐらいいして定期はみつかりま  
したが、いまでもそのことをわすれ  
られません。

#### 4年女子 八王子第六小

今、私のこまっていることは、  
このごろテストの点が悪いこと  
です。それをこまっているのは私だ  
けでなく、お母さんもこまってい  
ます。私にとって、お母さんがこ  
まったかおをするのがもつとこま  
ります。

この例のように、できなくて困るこ  
とよりそれに伴う対人意識の方がも  
と困るというのも少なくなかった。  
子どもは「できない」「わからない」  
「なくしてしまった」というだけで  
困っているのだから、それに追い打ち  
をかけるような行為は、大人として慎  
しみたいものである。

それにしても勉強がわからなくて困  
ると言う子が多いことに現場教師とし  
ての責任を感じている。勉強といっ  
ても、思考力を鍛えるものも、イメ  
ージ運動をより活発にさせるものもあるの  
だが、どちらにしても子どもの体感に  
あった学習課題ならこうも困らないの

ではないだろうか。ましてやその年令  
の子どもが持っている興味、知識欲に  
合った学習課題なら難しくても楽しめ  
るのではないだろうか。学習活動が子  
どもにとつて困ることばかりでは本  
当に困る。

#### へ迷子と遅刻に困る

対人関係であればどこまで困ってい  
る子どもでも、「時間」「空間」に困る  
例は少なく、時間は三九例、空間は九  
〇例であった。

数少ない時間の例の中には、「バス  
に乗り遅れて困った」「約束の時間  
間に合わなくて困った」という「遅刻」  
の類と、「待つ時間が多くて困った」  
「時間を見たら2時間ぐらいたされ  
ていました」という「待ち」の類とが  
見られた。その他に「遊ぶ時間がない」  
「遊ぶひまもない」といった例があっ  
た。こういう子ども達は睡眠中の夢で  
しかイメージ運動を活発に働かせるこ  
とができないのではないかと、不安に  
なるような例である。

空間では九〇例のほとんどが、「迷  
子になって困った」あるいは「家に入  
れなくて困った」といったものだった。

#### 6年男子 聖徳学園小

ぼくが四年生の時だった。学校  
から帰って一カ月前ぐらいに新  
くした家に入ろうとしたが開か  
なかったのだ。ドアが。ぼくが朝、  
家を出る時カギをもつていくのを  
忘れてしまったのだった。ぼくは  
裏口ではなく表のドアへ回つてみ

たがまだドアは作っていないなかったのだった。ぼくは困った。そしていちかばちかでがんばってへいをのぼり庭へ入った。庭からのまどを全部しらべたが開いていない。

本当に困ってしまったぼくは更に考え、待とうかと考えたが、今日はお母さんや弟達もおそい日だ。これから待つとするとあと三、四時間待つことになる。ぼくはやつとひらめいたが、ちょっと危ないと思いやめようと思った。そこで救いの者がくるまで十数分まったが来るはずがない。しょうがないから危い事をやるしかないと思っただ。その方法はまず二階のひさしに通じる木に登り、そこからひさしに立つて二階のまどから入ろうというのだ。まず木に登った。そこには簡単に登れたが飛び移るのが困難だった。まず父母の部屋のまどを見てみた。しかしロックがしていた。次に徹也の部屋、やはりだめ。そして孝敏の部屋を見た。「ヤッター」

あることとの差は大きい。家に入れなくて困ったことを書きたいくつかの作文の中で、そのことが詳しく、また生々と書かれていたのがこの6年男子の例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決するため例である。困難な課題を解決ため

### 5年女子 聖徳学園小

この話は、何かはわすれましたが、なにしろ小さい頃のことです。ですが、ようち園生だということとは、私しかです。

私と母がデパートへ、行きました。何か目的があつて行ったのですが、わすれました。そして、しばらく歩いたあと、私と母は、デパートの中のアイスクリームやへ、入りました。すわって食べました。ところが、そのアイスクリームは、シングルだったのですが、小さいから一つは、食べられませ

ん。しかもそのアイスクリームは、一つがとても大きかったのです。

食べていると大きいから、コーンの下の方から、水みたいなの、ものがたれてきて、心配になり、「お母さんこの水なに？」ときくと母は、

「ほらぐきさつと食べないのが、わるいんでしょ！」といって、私の手から、アイスを、とってティッシュペーパーを、まいてくれました。それでもたれてくるので、私は、

「もつとまいて。ねっ、ねっ。」と、いったんですけれど、これいじょう「だめ！」とでもいうように、顔をしかめて、捨ててしまいました。そして、

「あとでまた買ってあげるから。もつと小さいのを売っているお店で……」と、出ました。

そのあと、目的の場所へ、つきました。ところがついたのに、母がいまません。どうしたのか、見まわしましたが、おぼさんの山で、わかりません。それで、あるおぼさんが、私のことを押したので、くるしくて、かか足でにげました。

するとあるおねえさんがきて、「お母さんか、お父さんがきて、？」ときいたので、

「わからなくて。どっかいっちゃった。うっうっう」と泣いてしまったので、そのおねえさんは、「ま

いごのよびだしをしなくちゃ！」と言って、まいごの呼びだしをする、受け付けへ、行きました。そして、受け付けのおねえさんは、

「お名前は？」ときいたので、私は

「上原悦子です。」と言うと、おねえさんは、「まいごのお知らせです。白のブラウスに、ピンクのス

カートをはいた上原悦子さんが、一階受け付けでお待ちです。まいごの上原悦子さんのお母さん、急いで一階受け付けまで、来て下さい。」なんて言ったものだから、困

ってしまいました。普通、母が困るはずなのにへんだと思います。が、困ってしまつて、待っていると、母が息を切らしながら、走ってこつちに来ました。そして私が母にとびついて、しまいました。

「ありがとうございました。」と母が言つて帰りました。私は、車の中でも泣いていました。私はこれほど困つたことは、ありませんでした。

長い長い迷子のお話である。幼い頃の思い出の再現であるために、アイスクリームが溶けて困っていることも、泣き止まらずに困っていることも、切り離すことができないのであろう。今まで掲げてきた例はどれも現実と対面する意識であったが、この迷子の例は言い尽せないもの、すなわちイメージ運動が伴っているせいではないだろうか。

### 〈困ると泣きたくなる〉

迷子の例では二度泣いている。その

うちの「私は、車の中でも泣いていました。」に注目したい。もうお母さんに会えたのだから、事件は解決したはずなのにまだ困っている。子どもが感じている迷子は「一緒」か「別々」かといった事実ではなく、イメージに誘引された異空間でさまようことなのだと、考えさせられる例である。とはいえ、我が子が神かくしにあったと言わんばかりのうらたえ様を思うと、母親も共に、異空間を感じているのかもしれない。この例によって、日常生活の中でも、現実意識とイメージ運動とがぶつかり合うだけでなく、イメージ運動が現実意識を飲み込んでしまうような場面もあるのだということが確かめられた。

「困る作文」には情動を表わす言葉が数多く書きつけられている。「情動」は、九つのポイントの中でも「対人」「技能」に次いで多く、全体で二七七例であった。学年内順位は4年生が圧倒的一位、3年生と5年生が二位、6年生は四位だった。

「困る作文」に見られた情動はどの学年も同様に片寄っていた。それらを総括すると「泣きと怒り」になる。こんなところで、我々が児童の言語生態研究13号で取り組んだテーマに再び出会うことになったわけである。

### 3年男子 栗生小

●おじいちゃんとおばあちゃんがけんかをするとき、なきたい気持ちになってしまいます。

●計算ドリルで一もんでもちがうとすこぼくをおこるので、ぶつ

たたいてやりたい気持ちになります。●おじいちゃんがお酒を飲んでほくがねているときにおもいっきり大っきい声をだすから一ぱつかましてやりたいです。

●おじいちゃんがおこっているときやつあたりをするのでぶんなかしてやりたいです。

### 3年女子 八王子第六小

こまったら、しんぞうがドキドキしちゃってこわくなってしまふ。しらないまにこまっちゃって、こまると考えて考えると考えがまとまらない。そしてこまると、かなしくなっちゃって、こわい。それで、もしかしてこまっているときになしくなるから元気をだすとまたまたこまっちゃう。

### 4年女子 八王子第六小

私は、こまると、そのことできいなって勉強に、しゅう中できなくなってしまう。こまると、悲しくなってしまう。人に話されると頭にきてしまう。

### 4年男子 八王子第六小

ぼくは、こまることがあると、あたまが、がががんとします。あー

どうしたらいいんだろう。そうだ、ああしたらいいんだ。こうしたらいいんだ。そんなことをかんがえているのがうまくいかない。そのうちあたまのながむしやくしやする。そのうち人をなぐりたくなる。ブツバシたくなる。そのうちてをたたきたくなる。そうするとほかのこまっていることがあたまにうかんでくる。ザーつとやっついてううちにいかりがおさまる。そしてあそびに行く。つまりぼくのこまるといのは、いろいろわるいことをかんがえてしまうこと。

### 5年女子 笹塚小

じゅくにいくと、いやなあだなをいわれる。その時、とてもむしやくしやする。おまえがいわれたらどうするとか心の中で思う。いった人を、おもいっきりいじめかえてやりたいと思う。言った人を、じゅくからおいだしてやりたいとか、こんなじゅくやめたいと思う。心のおく深くまできずつけられてとてもいやだった。

4年生男子の例では他の二例のように、いかりが個人に向けられていない。この他にもいかりを表わす言葉は多く、「ゆかをあしでふみならしておこつた」「どなりたい」「かつとなる」「言葉も出ない」「ばかやろう、うらんでやる」と、どれも過激である。困る状態をいかっているのか、いかりの

状態に入ることを困っているのか。どちらが先かは不明だが、どちらにしても子ども達にとって、イメージ運動が停滞することは不快窮まりない状態なのだということがわかる。

泣きを表わす言葉には「なみだがポロリと出てしまう」「なきそうになつた」「なきたくてしようがなかった」「ただなくだけ」「ないてしまいました」があった。児童の言語生態研究13号の仮説によれば、ここで子どもが流している涙は、現実によって壊されてしまった夢を甦らせるための浄化作用だということになる。

二七七例を学年別に見ると、3年生が四一、四年生が一〇八、五年生が六二、六年生が六六と、四年生の数が断突であった。四年生というのはどの学年よりも強く、イメージの停滞を情動で感じていると言える。

子どもの生理感覚について考えさせられる例も見られた。

### 3年男子 八王子第六小

今日、一時間目のたいいくが終つたあと日君のあたまにぶつかつて、じぶんの歯でくちびるを切つてしまいました。血が止まらなくてどんどん血が出てきたから、とてもこまってしまいました……。

### 5年男子 笹塚小

ほつべたのあざがあること。

### 4年女子 六郷小

朝、かみがたがきまらない時。

「こまった！ 時間が無いわい！ うーん。」と、けつきよくさいしょのかみがたにする。

5年男子 鴨田小

なんかだいたい時おならをしてこまる。

5年男子 東小田小

やさいが、たべられなくてこまっている。

6年男子 六郷小

夜あまりねむれなくて、朝ねむたくなつたとき困る。

6年女子 六郷小

トイレの便器に「ゲリベン」がひつついている時、そうじの時困る！

生理感覚として拾った例の数は八七と少なかったが、その中でも6年生の数が一番多かった。学年が進んでも生理感覚とイメージ運動とのかわりは切れない、ということなのではないだろうか。

〈困るとは後悔である〉

イメージ運動の停滞を情動で感じると同時に、「困るとは〇〇である」といった定義作りが活発になるのも四年生であった。前に掲げた4年男子の例でも、長々といかりを書いた後で「つまり多くのこまるということは、いろいろわるいことをかんがえてしまうこ

と。」と結んでいる。

4年男子 八王子第六小

こまることは、自分にとって、「どうしたらいいのかな。」などと、考えこんでしまうことだと思ふ。今、考えてみると、「なんでこまらなくちゃいけないんだ。」と思つている。

いつどこでどんな時にこまるかによって、考え方もちがうし、その時のこまるがなくなつた時、どうしてこまっていたんだらうなどと考えることもない。こまるつていても、ほんのいつしゅんの時もあれば、すごく長く考えることもある。でもそれは、もしかしたら、こまる時の時間は、みんな同じで、自分が、いつしゅんや長いと思うだけかもしれない。それに、考えることのないようによつても、長いことや短かいこともある。

こまるは、頭の中がそのことについていいなこと、他のことは考えられない。もし、考えてたら、こまっていたことがわすれてしまふ。そのことしか、考えられない。

今までの例とは意識の仕方が違う。

自分にとって「困る」とはどういうことなのかと考えを進め、困った状態が長いか短かいかは自分の思い方によつて決まるということにたどり着いている。この例には、自分なりに困るの構造をとらえようとする意識が見られ

る。また「困るとは後悔である」と指摘した例もあった。

4年女子 相模女子大小

こまるというのは悪いことをしたあとにあんなことしなければよかったとあとでこうかきすることだと思ふ。私はせっかくなつた宿題をわすれた時「あつ」とどきつとする。そのあとでこまったなあと思ふ。私が今までで一番こまったと思つたのは、お父ちゃまとお母ちゃまがおおげんかをしたときに、どうしようこまったことです。こまるというのははらはらしたり、がっかりしたり、したことをいうと思ふ。

この例にも「こまるというのは……」といったところに定義付けの意識が見られるが、その内容を見ると「はらはらしたり、がっかりしたり」と情動が中心になっている。四年生では、思考を進める際に感情が大きくかわりあつていくことであろう。四年生で一四例あつた定義も、五年生には一例しか見られなかった。しかし六年生になると二九例と、四年生より多くの例を捨うことができた。

6年女子 玉川学園小

困ること、私たちはいつも「困つた、困つた」と思ふことがありますが、深く困つたと考えることはないような気がします。もしかして自分がわからないうちに、「ど

うすればいいのか」と考え込んだことがあるかもしれません。人間は、なにもかもパーフェクトにできる人はいないと思います。一人、何かしら出来ないものはあります。例えば、勉強もスポーツもでき優しい心を持っていてみんからはパーフェクトに見えても、うそをついたことのない人はいないでしょう。また、イエス・キリストも何もかも出来ても、うらぎられたということは、自分自身でも、まだ、不十分だつたところがあるにちがいありません。私も、沢山出来ないことも、あるのだから「困ること」など沢山あるような気がします。

6年男子 玉川学園小

僕には困つたことや困ることはありません。あつたとしてもくだらないことばかりです。

6年生になると「深く困る」「くだらないことで困る」と、困るを評価するようになる。困るも現実処理だけ考えれば苦勞がないということなのだろうか。困るの定義を考えるとどこか、「困らない」という例もあった。

5年男子 聖徳学園小

ぼくは、もしお金をわすれたら駅の人に貸してもらふ。そうしてそのかしてもらつたお金はこんどかえすのだ。そしてノートをわすれたらほか



の人に一枚かしてもらおう。  
そう言うふうにかまったらときはする。

### 5年女子 聖徳学園小

十月三十日十二時五六分、今私は困っているが、それ以上に困ったことは、女子と一緒に帰る時バスに乗りおかれて家に着くのが、おそくなった時。でも、これはあまり困ったと言わないから、塾の宿題がたまっていて、その日は、ピアノの日で、全然できない時。これは、何かバカらしい。バカらしいといえれば家にだれもいなくてかきもなくて、塾の時間がきたというのに行けなかった時。でも、このときは、本当に困った。

こうやって困ったことを考えていけば、十月三十日十二時五十六分に困っていた私は、十月三十日一時十四分には、全々困らないでいられます。

### 6年女子 玉川学園小

私の最大の困ることと言ったら、全部学校にかんけいがありませぬ。まず、いきなり先生に質問さ

れてわからなくなつてみんなを困らせる時です。この時はあせると同時に困ります。

このことから、困るといふことはあせることでもある、と思ひます。困ればあせるとあせれば困るので。

それから、家ではふとんをたたまなかつたり、戸をあけなかつたり、部屋を片付けなまま学校に行くときで、片付ければよかつたな、とか思つてしまひ授業が全然聞けません。この時も困るし、家に帰つてお母さんのお説教の時も、もちろん困ります。ところが、おこられると思つて困りながら家に帰つてもおこられない時があります。そんな時は、困つたといふことは一氣になくなり、助かつたといふ言葉がでできます。その時の心の中にまだ少しだけ困つたといふ気持ちが残っているらしく、心臓が鳴りまくりませぬ。

困つたといふことは、どんなに苦しくても必ずおわる、そしてふつうにもどれる。だから困つたことをしなひのはおかしい。だから、困つたことをするのは悪くないと思ひます。

動だと思ふのです。」といった自己反省がいくつも見られた。

### 〈自分に困る〉

困るの定義を考えながら自己批判・自己反省をしている例もあつた。

### 6年女子 聖徳学園小

「こまる」と一言でいつてもこまつたにはいろいろな意味があると申す。たとえば、

- 友だちがうるさくて困る
- 物をおとしてしまつたので困る

の二つをくらべると友だちの行動について述べたものと、自分の行動について述べたものになるといつていいと思ふ。

私がこまる時といへばだいたい自分の行動に困るほうだと思ふ。事実あまり、時間に正確なわけでもないからだ。一番困るものと聞かれたらやはり、一人の時などに大切なことを判断しなければならぬときでしょう。しかし、本当に困ることとは私にはたくさんあると思ふ。なぜなら、一つ一つ大切にまだ対処できるほど成長してないからだ。

### 6年女子 聖徳学園小

私のこまる事といふのは、まず一つは私の性格です。自分の性格といふのは、他の人

から見るとどんなものでしょうか？自分で言うときまず、ちよつと短気で、小さな事ですぐ、カツとなつてしまふのです。自分で気をつけようとしても、なかなかがまんしていられなくて、すぐなんか言つてしまふのです。

「そんな事を言つてはいけません。」と、思つても言つてしまふこの性格、早くこの性格を直したいのですが、ちゃんとがまん出来るようになるには、いつのことかまだまだと、思ひます。

もう一つ、こまる事は、すぐ顔に出てしまふ事です。何でもないので赤くなつてしまつたりして、自分で自分の事がいやになりそうです。この二つこまることを、早く直したいのです。

これらは過去の経験談でもなければ泣き言でもなく、怒りの訴えでもない。自分で自分の幼さを指摘したり、性格を分析したりしているが、それだけに留まらず、これからどうするべきかというところまで考えを進めている。このような自己批判は四年生で見え始めるが、五年生になると見られなくなつてしまふ。そして六年生になると四年生の時より多く見られるようになってくる。六年生になると対人意識が急激に広がり、情動はおだやかになつていくことを考え合わせても、四・五年生とは大きな違いがある。夢作文の分析からも、六年生になると夢の中に自分の意識を見ているのだという結果が



今回の作文調査では少数であったが、このような実感は子どもによくあることらしい。先日も四年生と一緒に、あまんきみこ作「白いほうし」を読むと、自分にも白昼夢のような経験があると答える子が多く、一担その話が始まると、教師がストップをかけない限り止まらないといった状態であった。現実処理以外のものとして「もし……」もあった。

#### 6年女子 聖徳学園小

私は、去年の春休みにスキーにいききました。そのとき、電車の中に、お弁当を忘れてしまい困ったことがありました。

しかしこの時は、サークルの先生方や、友達がいてくれたし、お弁当も新しくとりよせてくれたので、あまり難儀しませんでした。あのとき、もし一人だったら、と考えてみると、きっと私は、一人で駅の内を走りまわっていてきつと一人で悩んでいて、おなかをすかせたまま、スキー場まで行っていたかもしれません。

もしなにかに困ったら、どのような場合でも冷静にしなければならぬと思う。そしてだれでも良いから、近くにいた人に助けを求めるように心がければ、大半の問題は解決できると思う。

この例は六年生に多く見られた自己反省とも違う。現実処理に留まらず、未来を見通した上で、自分のあるべき

姿を描いている。もう困ってはいない。未来へのイメージ運動を始めたことによつて、停滞の状態からは脱出することができたのである。

困る作文は自分についてだけでなく、人間について考えるきっかけにもなったようである。次の例がそれになる。

#### 4年女子 相模女子大小

「こまったこと」がかい決すると、ほんとうに、ごく楽浄土にいる気分。そのあとはうかれちゃって、またこまったことを作る。でも、人間ってそんなことをくりかえしながら生きていくんじゃないのかな。

#### 6年女子 玉川学園小

前略——このように困った事はたくさんある。困った事のない人なんて一人もないのです。困る事があるからこそ、いろんな事が生まれると思うのです。だから困る事を大切にしないではいけません。と思います。

これらの例を見ると、イメージ運動が停滞している間に、次に起こるイメージ運動が準備されているのではないかと考えてくる。ここまでで「困る」状態から脱出するために必要なのは、より優れた現実処理能力を得るよりも、イメージ運動を活発にすることが重要なのだということがわかってきた。高学年の夢作文にはイメージの誘

引性を楽しんでいるような夢物語が見られたり、夢に自分の意識を見ているものが見られたりしたが、困る作文にも同じ事が言える。すなわち、高学年になると、現実処理をいかにすべきかということだけにこだわらず、未来に向かうイメージ運動を活活性化することによつて、「困る」状態から脱出することもできるようになるということがある。人間はどんなときにも夢に生きること忘れてはならないのである。

## 4 おわりに

今回の調査及び分析で明らかになったことといえば、日常生活の中で子どもが直面している現実意識の数々であった。大人からの圧力によつてイメージ運動を停止しているものもあつたが、それ以上に、子どもの現実意識の方が大きかった。夢ではダイナミックにイメージ運動を展開していながら、現実生活では、それ以外の方法で生きようとしている。子どもの言葉を借りれば、「ゆう気と悪いかいじんとで、たたかっけて負けている所です。」ということになる。なぜ現実を「ゆう気」夢を「悪いかいじん」にしなければならぬのか。三年生ですでに「やらなくてはならない」といった課題意識が育っているからなのである。この戦いは「ゆう気」が勝つても解決はしない。「悪いかいじん」が実は「ゆう気の源」だったということに気付かなくてはならないのである。このことに気付き始めるのは四年生、そして、戦いから脱

出し始めるのが六年生である。

困る作文に見られた意識の発達、夢作文に見られた無意識の発達と少々のずれがあつた。夢作文では、三・四年生で、現実が先行するようになるということだったが、困る作文の三年生には、まだイメージの先行がはっきり見られたこと。夢作文の五年生では現実先行から一歩脱け出しているということだったが、困る作文では、四年生から五年生にかけての大きな変化はなく、夢と現実とのぶつかり合いがはっきり見られたことが違つていた。困る作文ではイメージ運動の停滞期が五年生まで続いていたのである。

しかし、五年生から六年生にかけての変化は大きく、自己批判が多いばかりか、未来に向けての自己像といったイメージ運動を活活性化することによつて、停滞期からは脱出できるようになっている。この点は、夢作文の六年生に自己の意識が見られた点と共通している。「困る」の発達は、「夢」の発達より一歩遅れながら追い付いているということなのだろうか。

我々が「困る作文」に期待したものは、夢の中で夢が止まってしまう状態、すなわちイメージ運動そのものの停滞であつた。しかし予想以上に現実処理の含める割合が大きかつたため、イメージ運動を停滞させる意識を探ることになった。今回は低学年の資料がなかったため、現実よりイメージ運動が先行している段階での困るを探ることが今後の課題である。

# 児童の言語生態研究

## ●創刊号

子どもの連想と仮想と

## ●2号

子どもは「場」をどうとらえているか

## ●3号

国語の力「言語能力」とは何か

## ●4号

子どもにとって「書く」ということ

## ●5号

子どもにとって「うそ」とは何か

## ●6号

ことばをあやつることと、

ことばにあやつられること

## ●7号

子どもの感情の発達とことば

## ●8号

子どもの構えの変革とことば

## ●9号

用具としての言語学習のあり方

## ●10号

音声言語教育の方法を探る

## ●11号

子どものけんか

## ●12号

子どものなまいき

## ●13号

子どもの泣き

※1、10号を除き、残部多少あります。

## ＜イメージ運動を停滞させる意識チェックポイント集計表＞

37ページから続く

数字は例の数、( )内はパーセント

| 分析項目      | 3年生     | 4年生      | 5年生     | 6年生      | 合計       |
|-----------|---------|----------|---------|----------|----------|
| 現実処理以外のもの | 22( 18) | 7( 7)    | 9( 6)   | 20( 12)  | 58( 11)  |
| 定義        | 5( 4)   | 14( 14)  | 1( 1)   | 29( 17)  | 49( 9)   |
| 対人関係      | 63( 51) | 52( 51)  | 61( 44) | 142( 84) | 318( 59) |
| 情動        | 41( 33) | 108(100) | 62( 44) | 66( 39)  | 277( 52) |
| 生理        | 21( 17) | 12( 12)  | 18( 13) | 36( 21)  | 87( 16)  |
| 時間        | 7( 6)   | 4( 4)    | 11( 8)  | 17( 10)  | 39( 7)   |
| 空間        | 29( 24) | 9( 9)    | 8( 6)   | 44( 26)  | 90( 17)  |
| 技能        | 38( 31) | 59( 58)  | 83( 59) | 104( 61) | 284( 53) |
| 欠損・喪失     | 32( 26) | 47( 46)  | 41( 29) | 92( 54)  | 212( 40) |